第57回 長野県PTA研究大会飯水大会

～歴史と文化が宿る飯山で子どもたちの生き抜く力について考える～

10月18日、飯山市民会館において研究大会が開催された。大会テーマ『心で向き合えていますか？～家庭で、学校で、地域で、共に育つために～』のもと、県内各地から約600名の会員が参集した。

開会式では、青木十郎大会長、宮川直樹大会実行委員長のあいさつに続き、伊藤学司長野県教育長、足立正則飯山市長が祝辞を述べた。伊藤教育長は、急速に広がるスマートフォンやインターネットの利用について「子どもとルールを定めていくことが重要である。しかし、ルールの内容や守り方について、親と子の意識にズレがある」と話された。

その後大会は、三行詩コンクールの表彰、研究協議、講演会と続いた。

閉会式では、千野貴文副大会長による大会宣言があり、盛大な拍手で承認された。

研究協議

『笑顔のコーチング』

～家庭で、学校で、地域で、笑顔があふれるために～

コーチングとは、人間の可能性を引き出すコミュニケーションである。"笑顔番長"の愛称で親しまれているファシリテーター石田智子さんを迎え、会場参加型の『笑顔のコーチング』を体験した。

笑顔を引き出す3つの基本スキル

①聴く
最後まで否定しない。「あいづち、うなずき、くりかえし」をしながら、心を傾けて聴く。

②質問する
よい質問は、よい答えを引き出す。好奇心を発揮し、質問する。

③ほめる
おだてるのではなく、事実をありのまま伝え、ほめる。

会場で笑顔体験

初めに、ヒーローインタビューの形式で、2人一組になり役割を決める。ヒーローは「自分が笑顔になった体験」を話し、インタビュアーはどんどん質問をしていく。

この方法は、その時の体験がよみがえるため、自然と笑顔になり、元気があふれ出てくる。相手に元気がないなという場合に活用でき、真剣に話を聞いてもらえることで、次の一歩を踏み出す力が湧いてくる。

次に「笑顔スイッチ」（自分が笑顔になるきっかけ）を、4人一組で出し合った。多くの「笑顔スイッチ」が出されるなか、女性会員が発表した「地元から有名力士が出たとき」には自然と拍手がおこり、会場に笑顔が広がった。

笑顔は伝染していく

相手の可能性を引き出すためには「信じ、認め、任せる」ことが大切である。そして何より、まわりの笑顔を増やすためには、自分が笑顔であること。家庭が笑いのたえない場所になれば、子どもへ、さらには学校や地域全体へと笑顔は伝染していく。

石田さんの指導による『笑顔のコーチング』

参加者の声

☆笑顔のアイデアを出していく方法を、今度のＰＴＡ研修会で取り入れたい。

☆今まで、人を笑顔にさせるのは難しいと思っていた。今回ヒントをもらったので活用していきたい。

講演会

わが子を『メシが食える大人』にする思春期の子育て

講師
松島伸浩氏
1963年生まれ。
群馬県出身。
現在、スクールFC代表兼花まるグループ常務取締役。過去25年間で多くの受験相談、教育相談の実績がある。

研究協議に続き、松島伸浩氏の講演会が行われた。事例を交えての講演は、軽妙な語り口で分かりやすく、90分の講演時間が短く感じられた。

自立した大人に

少子高齢化、2020年の教育改革など、予測できない社会の変化の中を生きていく子どもたちに「生きる力」を身につけることが必要だ。そのためには「メシが食える大人」すなわち「家族を養い、世の中の役に立つ、自立した大人」に育てることが重要だ。

多様な経験をさせる

塾では、子どもたちに「外で遊べ」と言っている。勉強以外の多様な経験をすることで、多少のことではくじけない心が育つ。外遊びや習い事、スポーツでもいい。小さな失敗体験、成功体験をさせ、失敗してもその次がある、ということを経験させることが大事である。

聞く力を養う

学校にいると、授業や集会などで先生の話を聞くことがほとんどだ。話をきちんと聞ける子どもは、学力も高い。聞く力を養うためには、親子の会話が大事になってくる。テレビを消して、会話をしながらご飯を食べるなど、子どもと話す時間をできるだけ多くとりたい。

自立心を育む

私は、右目が先天性の網膜剥離で見えず、左目は弱視だ。だからといって、子どもの頃から親に行動を制限されたことはなかった。色々と制限されていたら、かえって内向的な子どもになっていたと思う。自立心を育むためには「見つめて、見守り、認める」ことが大切だ。

取材を終えて

松島氏は「子どもと一緒にいる時間は長いようで短い。巣立つ日が来るまで、家族で楽しい思い出をたくさん作ってほしい」と話された。残り少ない子育ての時間を大切にしたいと、しみじみ感じた。

長野県PTA三行詩コンクール

今年度の応募数は、小学生部門、中学生部門、保護者・教職員部門合わせて7495点。

10月1日の第3次選考会において選ばれた「長野県ＰＴＡ三行詩コンクール」優秀作品の中から3点を紹介する。（敬称略）

長野県ＰＴＡ連合会長賞

参観日
仕事休んで来てくれる
こっそり応えん　ありがとう
花岡　舞（美麻小5年）

優秀賞

隠し事悩み事
言ってないのに
なんでわかるのお母さん
大峡　和（鼎中3年）

どこか似てる　なぜか似てる
悪いところも良いところも
君を叱って親も自分を叱ってる
金山　裕（浪合小保護者）

優良賞

百田朱希（筑摩小3年）
小出智也（泉小4年）
伊藤真弓（治田小6年）
石岡　桜（飯山小6年）
岩間志穂（浅間中1年）
小嶋　織（高陵中2年）
伊井玲奈（浅間中3年）
矢澤恒汰（永明中3年）
伊藤真由美（手良小保護者）
伊藤わかな（東春近小保護者）
中島淳子（泰阜小保護者）
西原こずみ（小山小保護者）

受賞者の声

受賞した花岡舞さん（写真中央）

応募のきっかけは？

―クラスで一人ひとり考えて応募しました。

どんな時に作りましたか？

―お母さんが仕事から帰ってきた時、自然と思い浮かんできました。

受賞と聞いた時どうでしたか？

―すごくびっくりしました。嬉しかったです。

青木大会長による総評

審査の中で多くの作品に触れ、わずか三行ではあるが心にグッとくるものがあった。今後も、三行詩コンクールをきっかけに、家庭のつながりを見直してほしい。

大会宣言（要約）

笑顔の対話で、生き抜く力を子どもたちに！

家庭も学校も地域も、子どもが社会で生き抜く力を育む基盤です。対話を通じて人と人との結びつきを強め、信頼関係を築いていくことがＰＴＡ活動の本質です。

ＰＴＡは、同じ未来を担う子どもたちを支える者の集まりです。私たちが心がける笑顔は、言葉を超えて気持ちをまわりに伝えていきます。

明るい子どもの未来を信じて、一緒に笑顔で満ちあふれたＰＴＡ活動に取り組んでいきましょう。

平成27年10月18日
第57回長野県ＰＴＡ研究大会飯水大会

毎年開催の料理コンクール受賞作品のレシピ等ご覧いただけます。　やっぱ信州の牛乳でしょ　検索